

公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙

2015 夏

VOL. 11

## ありがとうの気持ちをみなさまへ



―やまこし復興交流館おらたる5万人セレモニー―

ご来館5万人を迎えた7月3日、対象者のみなさまへ記念品と山古志の風景写真を贈呈しました。

## contents

#### P2-3 特集

「長岡協働型ボランティアセンターの取組み」

市民協働による災害支援体制の構築

P5 ムラビト・デザインセンター活動紹介 P7 シリーズ 人 石黒 みち子さん P8 シリーズ4コマまんが「山古志の夏」

## P4 シリーズ 防災教育の現場から 「そなえ館での防災教育支援実践例」

おぢや震災ミュージアムそなえ館×県立小出特別支援学校

P6 山古志の夏の魅力~年中行事にみる地域性~

P8 インフォメーション、施設のご案内、会員募集



した。 り大賞」において、長岡協働型災害ボラ 効果的な取組を表彰する「防災まちづく デア等、防災に関する幅広い視点からの ンティアセンターが消防庁長官賞を受賞

の強化に関する活動を行っている。 時から防災意識啓発や防災ネットワーク 開設・運営などの災害支援活動の他、 時における災害ボランティアセンターの 災安全推進機構の一一の団体から構成さ 岡市危機管理防災本部、(公社)中越防 なニ~ナ、 ネットワーク、 長岡青年会議所、中越市民防災安全十 ながおか生活情報交流ねっと、 住民安全ネットワークジャパン、 は、(社福)長岡市社会協議会、 れており(平成二七年二月現在)、 長岡協働型災害ボランティアセンター (特活) にいがた災害ボランティア 長岡市国際交流センター、 (特活)多世代交流館に (一社) (特活) (特活) 災害 平

を活かす形で災害ボランティアセンター あるが、長岡の場合、社会福祉協議会が なニーナなどのテーマ型の団体とも連携 ターや子育て支援を行う多世代交流館に の運営を行っているのが特徴である。 との協働により、 主体となりつつも青年会議所やNPO等 営は社会福祉協議会が担うのが一般的で 通常、災害ボランティアセンターの運 外国人支援に当たる国際交流セン それぞれの団体の特徴

体間で被災地支援・被災者支援の理念の にすることが出来ただけでなく、支援団

防災に関する優れた取組、工夫・アイ 援のニーズに対応できる仕組みが出来て して支援活動に当たることで、様々な支 しかしながら、 当初からこのような災

動が出来たとは言えない。 支援の重複や、すき間が生じる結果とな 出来たが、互いの連携がなかったために 必ずしも効率的かつ効果的な支援活

ボランティアセンターのコンセプトや機 時の対応についての検討を行った。この 課題を共有・検証した上で、今後の災害 越地震における各団体の支援活動状況や 被災時対応検討会 (事務局:中越防災安 るスムーズな被災地支援活動を目指し 検討を通して長岡市における恊働型災害 フを加えたメンバーにより構成された。 ニティセンターや支所地域の社協スタッ 全推進機構)である。 として、平成二二年から開催されたのが かなネットワークを構築することを目的 て、関係各機関の役割を明確にし、緩や 検討会では、新潟・福島豪雨災害や中 その教訓を活かし、 上述の構成団体の他に地域のコミュ 設置手順、 関係機関の役割等を明確 災害発生時におけ 検討会のメンバー

害支援体制が出来ていた訳ではない。

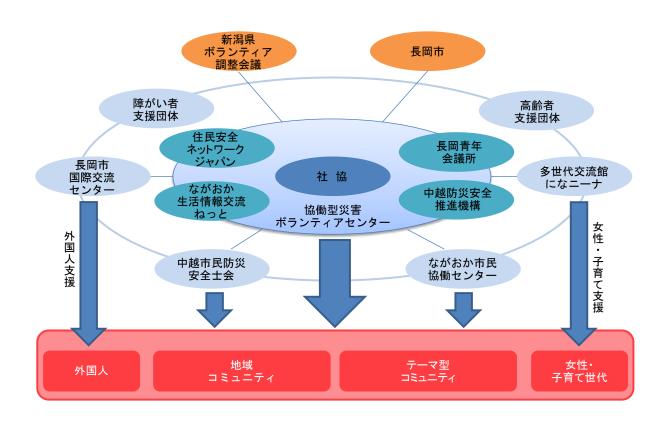
平

成一六年の新潟・福島豪雨災害や中越地

行った結果、一定の成果を上げることは 震では、様々な団体が個別に支援活動を

# 協働型災害ボランティアセンターのイメージ図

災害 VC に所属する団体がそれぞれの特徴やネットワークを活かして災害支援活動を行う



常に大きな成果であっ 有や信頼関係の構築が図 奇しくもこの検討会を開 れたことが 1, ・た翌平 成

非

することに 例えば、 つながった。 東日本大震災に お ١, て は

が、

被災時対応検討会の

が成果も

うあり、

関

た 蓈

災害など毎年のように災害に見舞われ

二三年より、

豪雪、

東日本大震災、

豪

係機関が

?協働・

連携して支援活動を展開

あ

ネッ 問題 土砂 連携することによって、 ア募集に関 設 た、 中 的 月八月豪雨においても水害後のゴミの ることが に行えたことで、 を被災地へと供給することが出 配 日 大限に活用して撤去作業を行うこと 去作業において、 三〇〇トン近くの支援物資を長岡から東 ううに も な や物資の収集・ 本へ送ったが、 心となって担っ を解決することにつながるなど、 撤去だけでなく民 情報発信のためのホー ノウ トワー うい 構 できた。 ハウを有する長岡 成団体の一 ても、 して的 クジャ ドパンの その 行政とボランティア 支援物資やボ ボランテ たことで、 管理等に その際の 確な情報発信につなげ つである住民安全 有地 他 道路上のゴミや 協力により円滑 ノイアの 青年 トラッ 内のごみや土 平成二五年 ムページの開 つ 円 () 一会議所 滑に物 一来た。 ランテ ては専門 クの が力を最 で、 ま 丰 時 との 11 つ、 (地域

災害支援の文化になりつつある 織を超えた様々な協働や連 ることで、 返り→改善といった流れが長岡に きている。 また、 災害支援の経験→共有・ふり 災害を繰り返し経験 携が生まれて おけ

も生まれてきている。 行うことで、 不定期で開催しており、 援団体間 る。 0) て つ 昨 消防団 たが 災害支援のための 関係づくりを進めることを主 更にはこれまでつながりの 年 「障が 「災害時の 度 0) は Į, 災害の 顔の見える関係を維持させ との 四 者支援\_ 災害対応力の 年ぶりに災害の 連携」 アレ ない ルギー を考える勉強会も また、 平時にお 検討会なども随 地 新たなつなが 強化も進 元 -支援」 勉強· 企業との ない ない 11 会の 百的 ても支 「災害 年 丑 他 l) 連

携を図りながら、 潟県災害ボランテ 支援体制づくりの普及や支援を全国各 その 討会を実施することで、 市 京 (都足立区) 関 他、 Ш 村など) 現在では日 北海道、 他地域で イア調整会議 で行ってい 本青年会議 協働型 新 のセミナ 湯県、 などと連 所や の 害 新 4

防災力センター 長 河 内 毅

面

0)

ごく一部の協働事例し 被災時対応検討会で

きないが、 関係上、

かけとして、

災害時に

おける

0) か

#### 「防災教育の現場から」 新潟県立小出特別支援

平成 25 年度末に完成し、新潟県下の小中学校および関係機関に配布された「新潟県防災教育プログラム」。これをきっか 学校教育現場での防災教育の取組みが定着し、継続して実施されるよう、学校や地域の実状に合わせた「自校化」に焦 点を当て、県内の小中学校での先進的な取組み事例を、シリーズ「防災教育の現場から」として当機関紙で毎号紹介していく。

## ◆実施概要

○日時:平成27年6月25日(水) 10時10分~11時40分

○場所:おぢや震災ミュージアムそなえ館

○対象校:新潟県立小出特別支援学校 ○対象人数:30名(小学部・中学部)

### ▶小出特別支援学校区の地理的特性

中越地区の山間部に位置しており、地震・水害・大雪・土砂崩れなどが想定される。

### ▶小出特別支援学校の防災教育の方針

災害が起こった時の被害を想定し、きちんと行動できる児童生徒を育てたい。児童生徒は 知的障害や肢体不自由があることから、災害時に自ら判断して避難行動をとることが困難な リアリティや具体性のある避難訓練や充実した防災教育の実施が肝要である。

びつける必要性がある

丁寧に積み重ね、 場感を持たせ、

災害時

校の子どもたちには、

校における防災教育である。

中でも注目すべきなの

が、

きている

事業

<u>×</u>

が

2始まり、

本格的に防災教

時

か らの

取組みの賜物だと言える。

新潟県では、

ふるさと新潟防災教育推

П

しであっ

た状況を考えると、

まさに平常

の表参照 支援学校の見学の様子を紹介したい 今回はその 特別支援学校による見学も少なくな ぢや震災ミュージアムそなえ館」 一〇一一年に起こった東日本大震災、 特別支援学校の防災に関していえば、 例 である新潟県立小出特別 では、 〒

であったと報告されている。 展開中に死亡、 災三県の特別支援学校において教育活動 負傷した児童生徒は皆無 被

リジ アル 学校で九五%にのぼる) 会を持つ 防災に関する検討や打ち合わせをする機 `返し丁寧に避難訓練をしたり` いる割合が九三%と高い。 ナルの危機管理マニュアルを作成 への規定事項が詳細であり、 別支援学校の場合、 (学校全体で六二%、 危機管理マニュ 日頃から繰 特別支援 般校よ 校内で 学校オ 思う。 学習支援も行っている。 越 が

また、

メモリアル回廊各施設では防

施設見学及び学

育の実践に取り組んでいる学校も増えて |機構で運営している小千谷市の また具体性のある訓練を 般校よりも、 の避難行動に結 特別支援学 特別支援学 臨 が高 学校の日常からの姿勢に学ぶべきところ 第 さまざまな障害を持つ児童生徒の安全を 現在小出を含め二校の特別支援学校から (践メニュー 接申請が上がっている。 ふるさと新潟防災教育推進事業の学校 優先に考えると、 いことは想像に難くない。 (補助金事業) においても 教職員の危機意識 肢体不自由 特別支援

タッ でも、 災学習となった。 るよう、 を持つ子どもたちに対しても理解ができ わ は非常に多いと考えられる。 くやさし フも心がけるなど、 I) タブ やすく伝える先生が 多くの工夫がちりばめられた防 レット端末を利用して内容を 日本語での案内を館 さまざまな障害 いたり、 今 回 0) 内 なる

害時 ても、 き、 さを実感してもらうためには、 必要である。 特別支援学校に限らず、 X 災害を身近に感じていただければと 、モリアル回廊の施設を活用い の状況や、 被災経験のない子どもたちに、 普段からのそなえの大切 校外学習などで、 般 創 放校にお 意工夫 ぜ Ō **%** 

タ ②地震動シミュレ へ

地震の揺れを体感 身を守る姿勢を取り 地震の揺れを体感した後に、





③展示室を見学 アター、写真パネル、被災した集合住宅を再現し - スなどで、被災した様子を視覚で確認しながら、 シアタ





^積極的な取組みをしている割合が 東日本大震災での被災児童生徒が ただけ

学校における防災教育の実施を支援する取組みである。

キュラムについても、 校における防災教育のプログラムやカリ れば幸いである お気軽にご相談

※ふるさと新潟防災教育推進事業:平成二六年度から県内全域の小中学校に、新潟県防災教育プログラムを活用した実践的な防災教育に取り組んでもらうため

(補助金事業)と学校サポート事業に分かれ、当機構は学校サポ

ート事業を受託している。

学校実践事業

①紙芝居 (そなえ館スタッフ作成) を見る

被災体験が子どもの目線で描かれており、 震災時の 状況について、臨場感を持ち、わかりやすくイメ できる。



文章:地域防災力センター 関谷 央子 参考文献:『特別支援教育研究 2012-September p6-9』) COSSS report 地域防災力センター、中越メモリアル回廊各施設では防災教育支援を行っています!お気軽にお問い合わせください。

## 「復興デザイン」から「ムラビト・デザイン」へ



ザインセンターでは、インターン生など 地域に新しい視点をもたらす「外部人 成・連携を図りながら震災復興を越えた 地域の担い手である「地域内人材」の育 サポートする「地域支援人材」、そして 材」と地域復興支援員などの地域活動を と地域をデザインしていこうといった思 名称には「村」「人」のデザイン、「村人」 興」から「ムラビト」へと名称を改めた。 私たち(旧)復興デザインセンターも「復 もこの節目に新しい局面を迎えている。 て活動を進めていく。 活気ある「新しい中越の日常」を目指し いが込められている。このムラビト・デ 「ムラビト・デザインセンター」という 中越大震災から一〇年が経過し、地域

外部人材育成」

直売事業、新規事業開発等を行うことで で ( 不 ) で ( 不 ) で ( 不 ) で ( 不 ) で ( で ) で

を行う。 定住、交流、協働する人材の発掘・育成

「地域支援人材育成」

地域復興支援員、集落支援員、地域おこし協力隊、自治体職員などを対象とした、地域活動を支える人のための研修会・た、地域活動を支える人のための研修会・情報交換会を開催する。具体的には新潟県内の先進的な地域づくりの現場を見るフィールドワークと実践研究(農村起業、女性、野生動物、エネルギー自給、森林女性、野生動物、エネルギー自給、森林女性、野生動物、エネルギー自給、森林女性、野生動物、エネルギー自給、森林

「地域内人材育成」

のスペシャリスト育成を兼ねる。 と共に地域課題を解決するためがら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践の研究者と協力をしな がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践と合わせた研究を がら、現場での実践の研究者と協力をしな

「多様な担い手による地域づくり」

ムラビト・デザインセンターでは、

づくり目指していく。 域支援」「地域内人材」が連携した地域越大震災の経験を元に「外部人材」「地

(ムラビト・デザインセンター



5 COSSS report



が行われる。 の夏。各集落では年中行事として盆踊り 山々に囲まれ、万緑に包まれる山古志

昔前、山古志を含む一帯の地域は

行事が今も受け継がれている。 一十村郷と呼ばれ、同じ文化圏特有の盆 盆は八月一日に始まり、一三日に家々

楽しみだったそうだ。 深夜まで踊り続け、祝い酒を手に各集落 粧をしたり山笠を被るなどの変装をして 集落の神社で盆踊りを盛大に踊るのだ。 ながら嫁さがしをすることが何よりもの の会場を練り歩き、太鼓の腕前を披露し 頭取りの甚句に合わせて踊る。若者は化 装飾したやぐらの上で太鼓をはたき、音 に迎えた祖霊を返すために一六日頃に各 その盆踊りでは、萩や萱、提灯などで

りの習俗を伝承して行くことが難しく しかし、近年様々な娯楽の発展や、就 進学による若者の流出もあり、盆踊

的被害を受け、全村避難を余儀なくされ 活中にも山古志合同盆踊りを開催したこ 住民は大切な習俗を守るため、避難生 その中で、山古志は中越大震災で壊滅

せ、盆踊りを再開しようと取り組んだ。 谷」「楢木」「大久保」の三つの集落では、 帰村後は、各集落が年中行事を復活さ それでも、「三ヶ地区」と呼ばれる「池

> 盆踊りを行なう事も難しい状況となって 人口減、高齢化の影響が大きく、集落で

「三ヶ合同盆踊り」を開催することとなっ 組む集落の若者が中心となり、地域復興 力を得て、三つの集落が手を取り合った 支援員や東洋大学学生ボランティアの協 そんな状況のなか、公民館活動に取り

が中心となって、昔のような活気を取り 落出身者の会)も駆けつけてくれ一五〇 盛り上がりを見せている。 を争う程の盛り上がりを見せている。 がらの開催ではあるが、三ヶ交友会(集 戻すべく、各集落の盆踊りを練り歩き、 人を超える集客があり、山古志内一、 また、昨年から山古志の二十代の青年 毎年、慣れない太鼓や音頭を練習しな

をお伝えしており、まだまだ紙面では伝 る様子は、山古志の魅力を象徴している。 世代を問わず住民が一丸となって活動す 越しの際は、是非おらたるにお立ち寄り てしまった山古志だが、地域の伝統行事 のような四季折々、ありのままの山古志 いただきたい。 えきれない夏の魅力がある。山古志にお を守ろうという思いがきっかけとなり やまこし復興交流館おらたるでは、こ 震災前から比べて人口は約半分となっ

(やまこし復興交流館おらたる 畔上 凌





中越地震発生時の状況と感じたことを教えて下さい

理やり押し付けるようにして渡しました。そうしたらその人はポロッと「気持ちはありがたいけど、透析で食事制 ご近所に高齢の男性がいて、支援物資でパンをもらった時、頑なに断るなか「遠慮しなくていいからどうぞ」と無 限があるので食べられない」。それを聞いた時、言いたくないことを言わせてしまったという罪悪感でガーンと打ち たのかと考えた時、それは私が災害に対する知識が無かったからだと気付きました。 もう一つ、苦い経験があります。 無知さからだと反省しました のめされました。知識があれば、顔色や体付きでわかっただろうに、気付けず、あえて言わせてしまったのは私の た時、『小千谷はこれで終わりだ。もう復興できない』と絶望しました。なぜここまで心にダメージを受けてしまっ て異様でした。夜が明けて、建物の倒壊や地割れ、電線がちぎれて道路に垂れ下がっている様子を目の当たりにし その時は小千谷の自宅にいました。 地鳴り、 建物が軋む音、 あちこちからの悲鳴などいろんな音が一気に起こっ

触れたことが、沈んだ気持ちを持ち直すきっかけとなりました。 繋がりがない県外の方々にも「困ったときはお互い様だよ」と声をかけていただき、見返りを求めない温かい心に また、避難生活中には、多くの方から炊き出しや日用品の援助などご支援いただきました。震災前からの特別な

現在の活動をするきっかけになったんですね

なっています 地震の経験をお伝えし、私が味わったような気持ちを二度と他の方にして欲しくないという想いが活動の原点に たくさんの方からいただいた温かいご支援に恩返しする気持ちと、恩返しの方法としてできることを考えた結果

開設されるのであれば、ぜひ受講したい」と問い合わせました。その後、本当に「中越市民防災安全大学」が開校し、 市民向けの連続防災講座が必要だというようなお話をされていたんです。そこで、大学に「もしそのような講座が 期生として学ばせてもらいました。 地震後に、たまたまテレビを見ていたら、長岡造形大学の平井邦彦先生が、今後また起こりうる災害に向けて、

安全大学卒業後の活動について教えて下さい

づきを返してもらえると、すごくやりがいを感じますし、宝だと思っています 部として出向いています。 応をしています。また、地域の防災士として、日越幼稚園や日越小学校や宮内中学校、西中学校に出前講座や語り 週3日ほど、ながおか市民防災センターにある中越市民防災安全士会の事務所に在席し、県内外からの視察の対 講座後に子どもたちからの感想のお手紙をいただくことがあるのですが、年齢なりの気

今後の目標を教えて下さい

がら次に来る災害への準備をしていきたいです。 たくない。体験談を伝えていき、それぞれの方が考えるきっかけになれば嬉しいです。もうひとつは、避難所運営 について実際に集まって訓練をしてみたいです。自分だけではスキルが足りないので、地域の方々と一緒になりな ひとつは、これまでやってきことの継続です。本当に自分が辛かったので、皆さんにはこんな思いはしてもらい

松井 千明 取材者:長岡震災ア きおくみらい

#### 【きおくみらい発!災害メモリアルバスツアー(小国コース)を開催します!】

中越メモリアル回廊の施設と、震災を乗り越え活力を取り戻した地域を巡るバスツアーを開催します。美味しい郷土料理を食べたり、山歩きをしたり、小国の新たな魅力を見つけてみませんか。

日 時:平成27年8月7日(金)10時~16時30分

内 容:長岡震災アーカイブセンター発着~越路松籟閣~法末自然 の家やまびこ(昼食)~小国和紙生産組合(紙すき体験)

~中央図書館 他

参加費:1,500円(昼食代・お茶代・保険料・バス代を含む)

定 員:20名(小学生以下は保護者同伴。介助者同行であれば

どなたでも参加可能)

申込先:長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

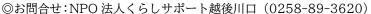
TEL: 0258-39-5525 FAX: 0258-39-5526

E-mail: kiokumirai@cosss.jp

次 回:川口コースを平成27年10月18日(日)に開催予定

#### 【「夜のきずな館」計画中!】

川口地域に若者の交流の場を作るべく、NPO法人くらしサポート越後川口が企画しているイベント「夜の○○」シリーズの第3弾を川口きずな館にて計画中です!第1弾は「大根おろしアート鍋」を調理し、第2弾は「夜のきずな館★ダンスダンスうどん」として、うどん生地の上で踊ってコシを出し、交流会の〆に皆で食す会を催しました。第3弾は、きずな館を会場とした夏の思い出となるイベントを8月下旬に企画中です!











## ≪中越メモリアル回廊全体図≫

2015年11月開館予定

中越沖地震のメモリアル施設 柏崎市民活動センターまちから



旧公会堂の喬柏園(きょうはくえん)に市民活動センターと併せて整備され、地震の経験・教訓とともに、賑わいの再生に取り組む復興の町づくりを伝えます。



#### 会員募集中!

当機構では、地域防災への取り組みや被災地への支援活動に賛同し、応援して下さる会員の方を募集しています。皆様のご入会をお待ちしています。

参加資格:当機構の活動に関心のある 18 歳以上の方なら、どなたでも参加できます。

会員特典:当機構が主催する研修・講座・イベント等のご案内をいたします。

年会費 : 正会員 5,000 円 個人賛助会員 3,000 円 団体賛助会員 100,000 円 (1口以上)

※申込書は当機構ホームページよりダウンロードできます。

#### 公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙 < COSSS report> 第 11 号 2015 年 8 月発行

〒 940-0062 新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 2F 長岡震災アーカイブセンタ - きおくみらい内

TEL: 0258-39-5525 FAX:0258-39-5526

E-mail:info@c-bosai-anzen-kikou.jp http://c-bosai-anzen-kikou.jp/

## おらたるの看板飲むくる やまこしの日常4コマ









### まんがの作者



やまこし復興交流館 おらたる スタッフ 川上 沙織

### 施設のご案内

#### 長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

₹ 940-0062

新潟県長岡市大手通 2-6 2 階開館時間 平 日 10:00 ~ 18:00 土日祝 10:00 ~ 17:00 休館日 再週火曜日 年末年初

#### おぢや震災ミュージアム *そ*なえ館

〒 94 /-0026 新潟県小千谷市上ノ山 4-4-2 2 階 開館時間 9:00 ~ 17:00 休館日 毎週水曜日 年末年始 TEL 0258-89-7480/FAX 89-7485

#### 川口きずな館

〒 949-7503 新潟県長岡市川口中山 1441 開館時間 10:00 ~ 17:00 休館日 毎週火曜日 年末年始 TEI 0258-88-362075AY 80-

## やまこし復興交流館

〒 940-0204 新潟県長岡市山古志竹沢甲 2835 開館時間 9:00 ~ 17:00 木館日 毎週火曜日 年末年始